

アンケート調査より

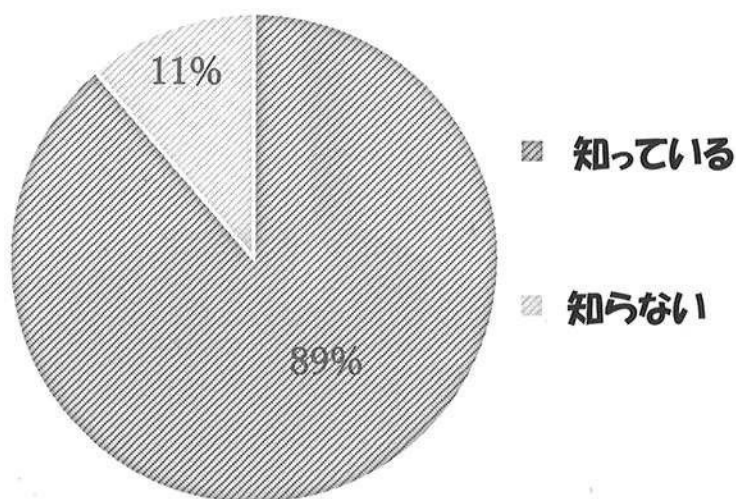
データの集計と見解

アンケート調査の実施期間 令和2年1月28日～同年3月上旬まで

被災についての質問項目 13

以下、項目ごとに紹介する。

①手話通訳派遣制度を知っているか



分析

派遣制度をほぼ知っている状況にある。

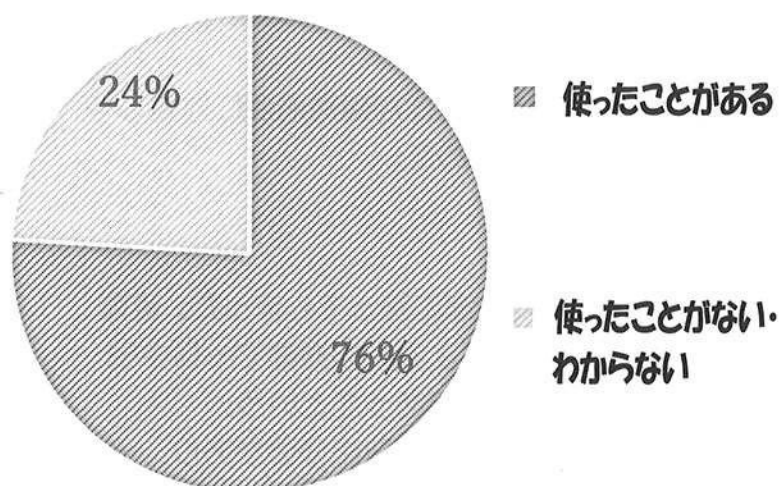
背景について

派遣制度をまだ知らない人が10%存在している原因や背景について調査・対策すべき課題である。

対策

協会の会員は制度をほぼ知っているようであるが、一方、非会員のほうが派遣制度自体をよく知らない状況にあるケースがある。対象者のすべてに情報が公平に行き届くようにする方策を講じなければならないように課題がある。

②今まで手話通訳制度を使ったことがあるか



分析

通訳の派遣制度を使ったことがあるのが約8割。一方で通訳派遣を使ったことがないのが約2割もあった。

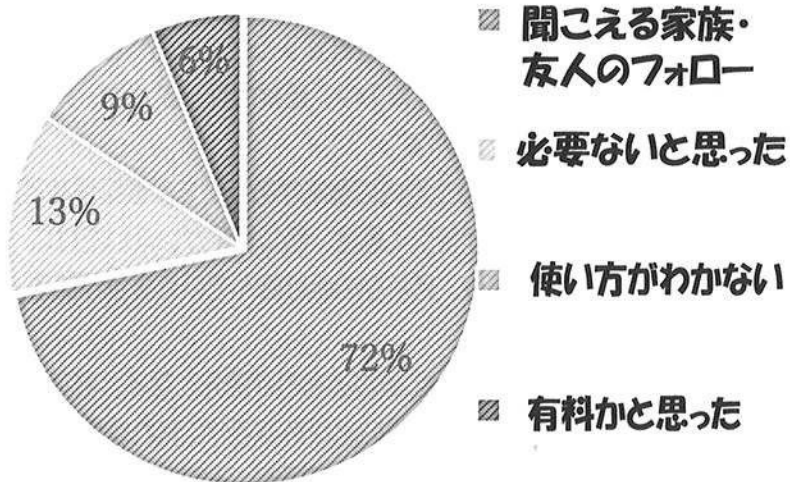
背景について

通訳派遣を使ったことがない理由として、制度を知らない、家族以外の周りに知られたくない、迷惑をかけたくない等々があった。

対策

手話通訳には守秘義務があることが知られていないこともあった。手話通訳者の役割を同行者や介助者と誤解されている面もあり、通訳制度の仕組みなど正しい情報を知ってもらう取り組みの展開が必要と思われる。

③手話通訳を利用しない理由は



分析

「家族（友人など）が聞こえるから通訳してくれる」などを理由として顕著に出ている。

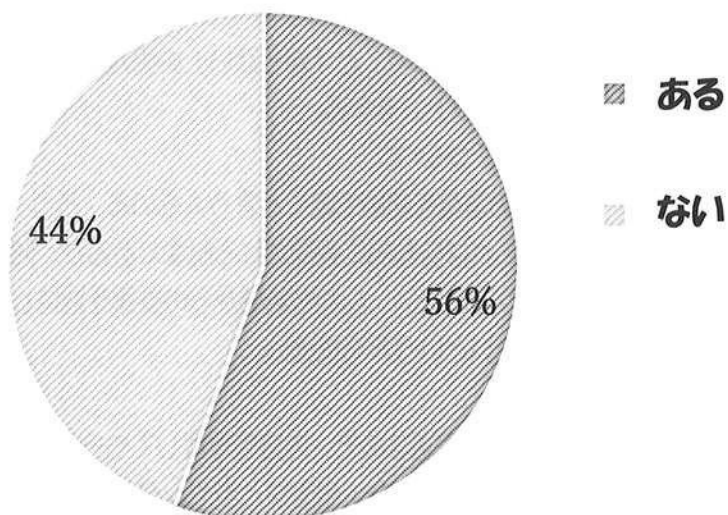
背景について

全般的に見て、手話通訳の目的や役割を正しく理解していないことが主要因となっている。

対策

手話通訳は、情報提供だけでなく意思疎通や深層の気持ちを引き出すなどの役割があるということをもっと理解してもらうことが大切。必要なのは、きちんと伝えてくれるかどうか…である。

④被災は…



分析

被災状況の大小に関係なくおよそ半分以上の被災の訴えが出ている。

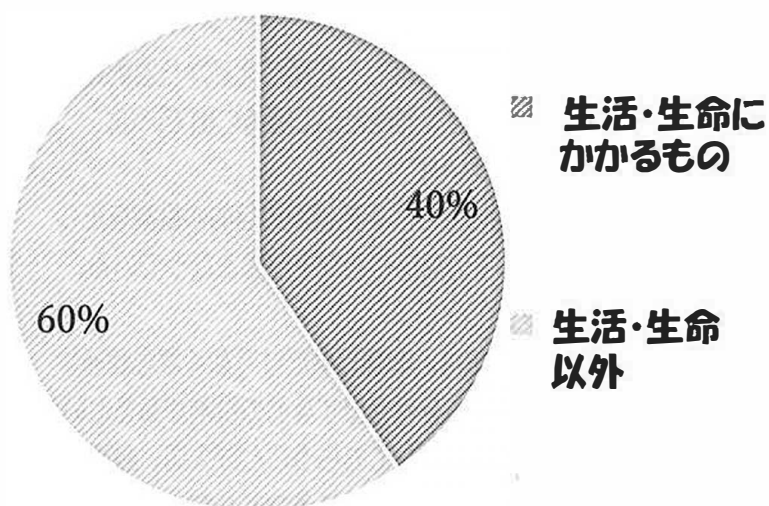
背景について

被災状況は物損だけではなく、「怖い思いをした」との精神的な訴えがあり、心のケアが必要。

対策

今回3回の度重なる災害は「また来るのではないか」という恐怖感が強く、むしろ心ケアなどのサポートとかフォローの取組みが必要と思われる。

⑤被災の内容は



分析

被災状況の内容を確認すると、生活や生命に直接関わるもの（家の中、屋根の瓦）が4割。

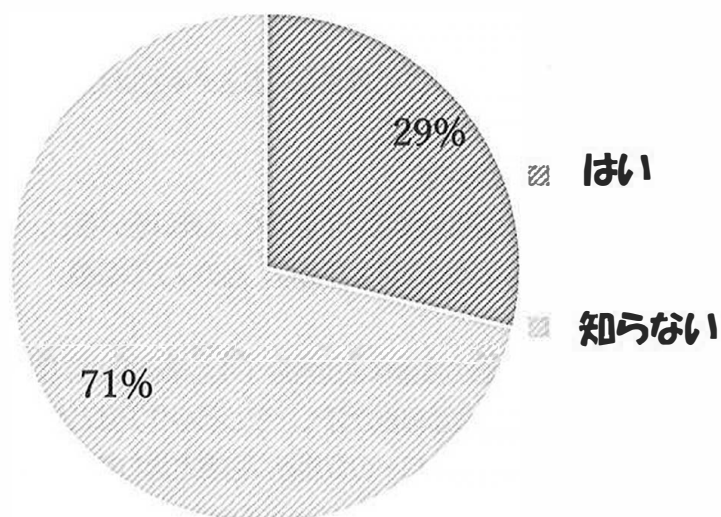
背景について

庭などの敷地内に倒木があっても、後処理などの片づけが長引く場合、話し相手がいないだけに不安が募り、持ち主の心は病んでいく事例がある

対策

生活や生命に関わるものが優先となる。庭などに昔の懐かしき思い出があるだけに荒れ状態をながめるたびに心身不調を招き、不安も募る。ろう者の場合、話し相手などの支援が必要となる。

⑥避難行動要支援者を知っているか



分析

「わからない」と「知らない」の両方を合わせて70%以上にもなる。

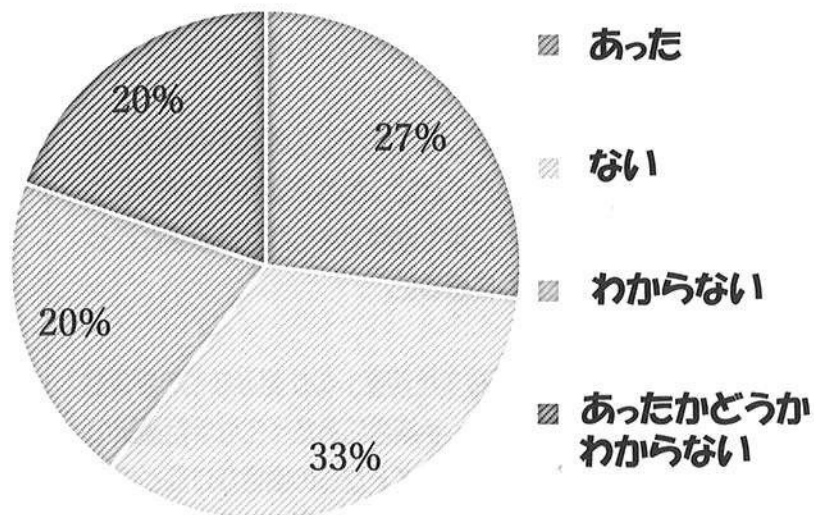
背景について

その言葉を初めて聞くとする人もいる。ろう者であれば自動的に登録される制度であるが、知らされていない。しかも地域からの支援を期待していないという声も根強い。

対策

難解な用語なので、内容を理解してもらうにはどうしたらいいか、市町村と当センター（情報提供施設）との連携で説明会を設け、制度仕組みなどの理解を広めていくことが必要と思われる。

⑦避難行動要支援者の説明はあったか



分析

この制度（避難行動要支援者制度）を知っている人は前問（⑥）では29%であったが、この質問に「説明があった」と回答した人は約27%と、共通性がある。

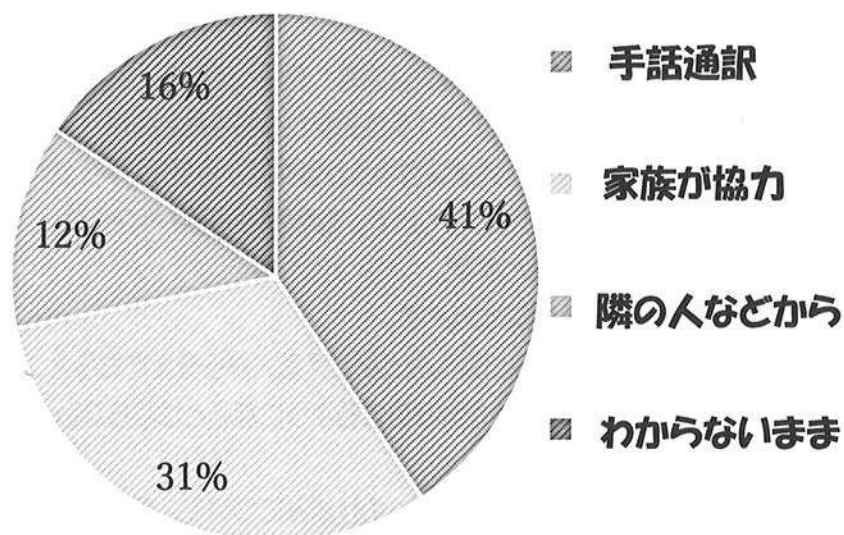
背景について

「ない」「わからない」「不明」とのトータル回答は70%以上にもなる。行政から通知内容の意味が分からず、何のことだろうと思った人が多かったと思われる。

対策

市町村と当センター（情報提供施設）との連携で説明会を設け、制度仕組みなどの理解を広めていくことが必要と思われる。

⑧避難行動要支援者については誰から



分析

この制度（避難行動要支援者制度）を知っている人の中で、手話通訳を付けて制度を知り得たのは41%。つまり全体の約12%としか手話通訳での説明を受けていなかったということになる。

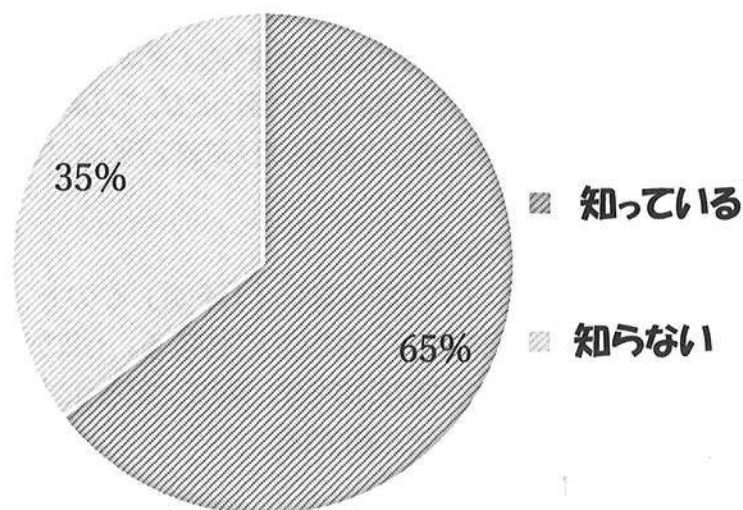
背景について

家族・隣の人から情報を得たとしても、詳細の仕組みまで知り得たかどうか…懸念がある。

対策

なじみにくい言葉なのも一因。内容を理解してもらったうえで自立自助での対応も理解してもらうことが大切。やはり、市町村と当センター（情報提供施設）との連携で説明会を設け、制度仕組みなどの理解を広めていくことが必要と思われる。

⑨ 罹災証明書を知っているか



分析

「罹災証明書」を知っている人が半数以上。

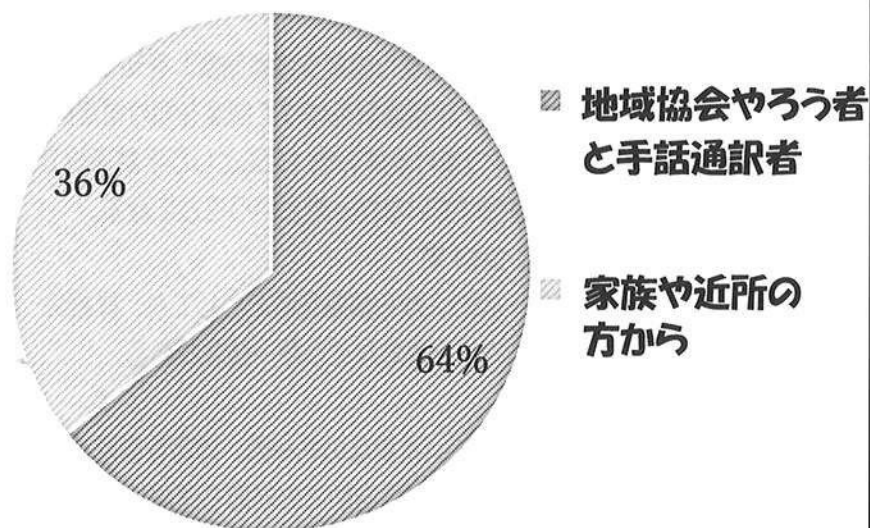
背景について

被災後になって初めてこの制度の仕組みを知った人がいた。ただ、制度の詳細の仕組みなどの内容をどこまで理解できたかは微妙なところがあるように感じた。

対策

やはり「罹災証明書」の仕組みなどの学習会が必要であり、手続きにあたっては手話通訳の手配などの行政サイドからの働きかけなどのアプローチといった配慮が必要である。

⑩ 罹災証明書の情報は誰から



分析

前問の「罹災証明書」を知っていると回答した人の内訳では「手話通訳から知り得たのが31%、地域協会やろう者仲間から知り得たのが33%と出ていて、当事者関係団体等からは64%と高率。

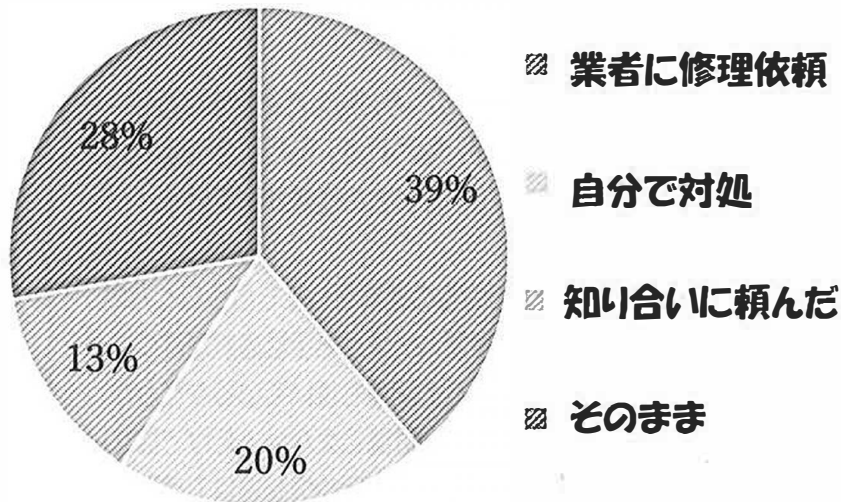
背景について

家族や隣人など聞こえる人から教えてもらえば内容の理解が広まるようになるとは限らない。

対策

「罹災証明書」の仕組みについて、手話通訳のニーズがあるときは手話通訳の配慮を…と啓発に努めていく必要がある。地域協会や相談員などピアでの支援活動は重要な社会資源のひとつであることを広く知ってもらう必要がある。

⑪被災部分の対処について



分析

知り合いに頼んだり、自分で対処したり、放置したり…の人が60%強。

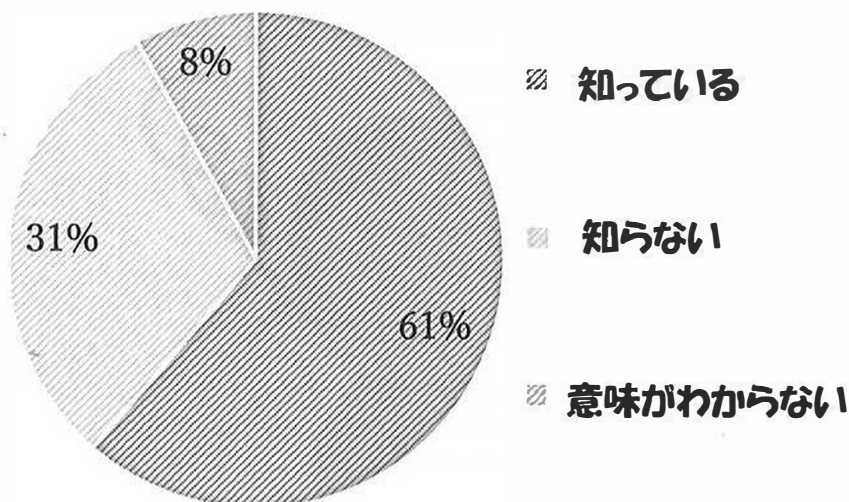
背景について

手話が分からない業者に修繕の内容を説明するのは難しく、手話通訳を付けてもトラブルが出たりする。それならば知り合いに頼んだり自分で対処した方が手っ取り早いと判断する事例が多い。それが原因で自分だけ対処しようとして屋根から滑り落ちて入院した事例が出ている。

対策

ろう者は自立自助で対処しようとする人が多い事例のひとつである。県センター・地域協会と行政の連携が必要。

⑫福祉避難所と一次避難所について知っているか



分析

知っているのとの回答が61%。しかし、制度の仕組みや区別をほとんど知らないのが実情である。

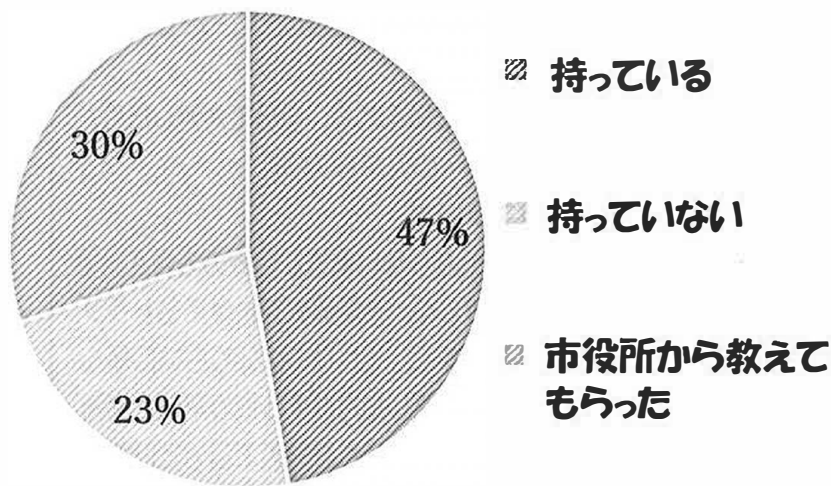
背景について

一次避難所に避難してもコミュニケーションが難しく、情報も入りにくいとの課題は依然として強い。とりわけ一次避難所内で人の通行時の足音（振動）がうるさくて眠れないため、避難所への移動を拒絶する事例がある。

対策

「振動に伴う騒音被害」などろう者特有の生活感覚への配慮が必要であり、この啓発的活動が必要である。

⑬福祉避難所・一時避難所の情報は持っているか



分析

情報を持っている、行政に教えてもらったという人が8割弱。

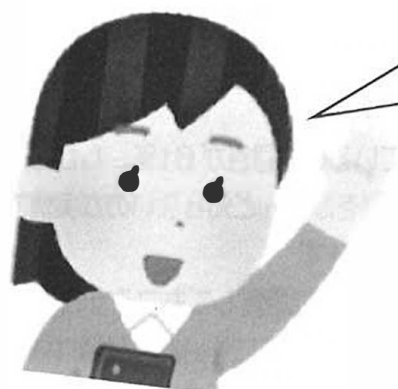
背景について

情報を持っていると答えた約半数は行政から知り得た情報と思われる。ただ、2割強の人が情報を持っていないとの回答が出ている。

対策

避難所の内容の理解をしてもらうことも必要。福祉避難所といえども手話通訳が付くかどうか、ろう者への配慮も付いているかどうか等々。福祉避難所は聞こえない人だけではないなどといった事前の説明や情報提供で理解してもらうことが必要。相互理解を深めていくためにも、平常時の啓発活動が大事。

聞こえないゆえにわからないことだらけ…



聞こえる人

日ごろから教えてあげているからわかっているよね。

分からないことがあれば質問して下さいね。



聴覚障害者

これまでの情報がないから、急に「罹災証明書」

「避難行動要支援者」と言われてもわからない。

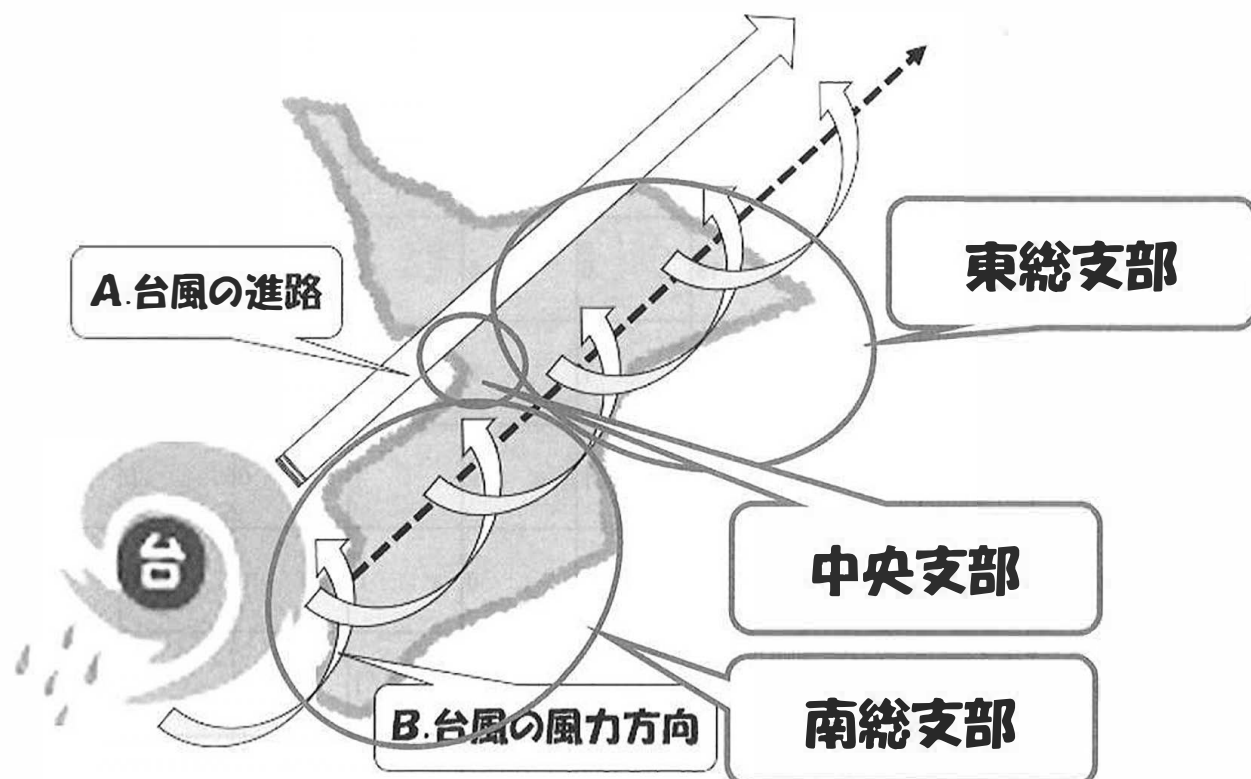
何と質問したらよいのか、書くのが難しい。

このようなことが今回の調査で浮き彫りに…看過出来ない実態が！

このアンケート調査結果をみて感じたことは…

- ろう者の情報障害やコミュニケーション障害など特性など啓発活動が必要
※まわりに迷惑をかけたくないと思うがあまり“わかったふり”の会話が
出たりする事例があった。手話通訳やピア相談支援が必要となる。
- 「災害時避難行動要支援者」「罹災証明書」の他に「手話通訳派遣制度」
もよく知らないろう者の存在が散見された。手話通訳付きの説明会開催を。
- 聞こえる家族や隣人の偏った情報により、情報障害が出る事例があった。
- 行政からチラシや市広報などで周知に努めている一方でろう者は周りの話
し声での情報が入らない分、意味がわからないままに終わった事例が…
- 一次避難所や福祉避難所の仕組みや在処などについて手話通訳付きの説明
会が必要である。
- 訪問調査を経て、アンケートの回答だけでは見えない部分も顕在化した。と
くに設置手話通訳者の無い地域では、情報提供施設との連携を構築しなけれ
ばならない。(情報提供施設のサテライトづくりとか)

以上のアンケート調査は台風で直接被災を受けた地域を対象に行いました。



地理的に A の台風の進路の下(南側)が大きな被災を受けたことから